

科目名		放射線衛生学実習	
科目責任者		大津山 彰 (放射線衛生学 准教授)	
開講時期:	2～4年次	単位数:	6 単位
		時間数:	90分× 90 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>放射線発生装置(線源が放射性同位元素やX線管)を操作し、照射方法、安全操作、防護方法について体験する。動物個体の高線量急性被ばく、低線量長期被ばくを行い、それぞれの個体から経時的に得られた検体を、分子生物学的、病理学的に解析する。また、身体的影響(臨床症状)についても経時的に観察する。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 動物実験、遺伝子改変に関する実験の申請を行うことができる。</li> <li>2) 高線量急性被ばくの実験において、被照射物に適切な線量・実験環境を選択できる。</li> <li>3) 低線量急性被ばくの実験において、被照射物に適切な線量・実験環境を選択できる。</li> <li>4) 実験で得られた検体の分子生物学的解析に適切な実験方法を選択できる。</li> <li>5) 実験で得られた検体の病理学的解析に適切な実験方法を選択できる。</li> <li>6) 放射線被ばくによる身体的影響を適切に分類解析できる。</li> <li>7) 実験で得られたすべての結果を相互に関連付け説明できる。</li> <li>8) 他の関連研究の結果と得られた結果を比較検討し考察できる。</li> </ol>			
● 評価方法	実習内容の過程、結果の記録を都度レポート形式で提出させ評価する。		
● 参考文献	実習の中で必要に応じ紹介する。		